



手打ちそばを通じて交流の輪(和)を広げる  
NPO法人そばネットジャパン

## 2026年の新春を迎えて

代表理事 阿部 成男

全国の会員の皆さん、あけましておめでとうございます。

令和8年の新春を皆様ご健勝にてお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年？といつてもつい昨日の年越しそばはいかがでしたか？ご家族はもちろん、友人やお世話になった方へ沢山打たれたことだと思います。私たちそば打ち人の存在感を示す大きな行事だと思います。

開けて元旦、私の住まい さいたま市は穏やかな冬晴れに恵まれ、氏神の氷川神社に初参りをしてこのご挨拶をしています。

- ◆ NPO法人そばネットジャパンは昨年、設立20年、そばネット埼玉をそばネットジャパンに改称後5年の節目を迎えました。

そばネットジャパンの主要事業は **交流の輪を広げる** **そばリスト検定の推進** **地域そば文化の継承・地域活力の発展** の3本柱ですが、それぞれ発展を続け、交流事業の「全日本そば打ちマスターズ大会」は“高齢者をそば打ちで幸齢者に”と年齢別クラス分けで実施しており、今月18日に第7回大会を開催します。63歳から92歳までの高齢者が元気なそば打ちを披露しますので応援をお願いします。

**そばリスト検定事業**は、技能検定の認定者数が1,367人 (2025.12.20)となり、そば学検定もそば学士 110人、そば学修士 81人となっており、僅か5年で大きな成果を上げています。

**地域そば文化の継承・地域活力の発展** は、戸隠そば文化交流を3回、利根沼田そば文化交流2回、へぎそば文化交流を2回実施しております。

以上の成果は会員の皆様の支援、ご協力の賜であり改めて感謝を申し上げます。

- ◆ ただ、ジャパンとして新たなスタートをし、新規事業への先行投資に加え、新型コロナウィルス感染拡大という未曾有の災害に見舞われたことで苦しい財務状況が続き、20年据え置きの団体正会員会費の改定を余儀なくされ、値上げとなつた会員にはご負担をおかけすることになり大変申し訳なく思っております。

さらに、個人正会員の皆様には、そばネットジャパンのさらなる発展のために要する事業資金の確保となる「事業協力金」をお願いしており改めて感謝を申し上げます。

- ◆ そば学検定は7科目中6科目のテキストを発刊、残り1科目「郷土そばの技術と魅力学」のテキストを作成中で、いよいよそば学博士の誕生が見えてきました。

7科目のテキスト作製に当たっては、新奇そば学検定部長が先頭に立って掲載予定の地域への取材をしております。

私も、分担を受け取材をしていますが、いずれも正しく「その地域特有の環境に適したそば文化」が継承されていることに納得をさせられました。

例えば、新潟県の郷土そばと言えば「へぎそば」ですが、十日町や塩沢町など織物産業が盛んな地域では織物に必要な「布のり」が身边にあったこと、岩手の旧山形村(現久慈市山形町)は、そばの繋ぎに豆腐と卵を使いますが、その地域では各家庭で豆腐を自作していて、鶏を飼っているので卵もあること、長野県飯山市富倉地域では、山菜のオヤマボクチの葉を乾燥させて手間をかけて集めた纖維を使用しています。

それらは、ある程度は事前学習で理解しているからテキスト掲載の対象としていたのですが、実際に取材してみて歴史や文化の奥の深さを実感しました。各地域とも共通しているのはいかに材料を大切にしていることです。

特に練り、延し、切りなど私の常識では理解できない技法もあって、かなりのショックを受けたものです。

「科学に少し精通している人ほど自信過剰となる傾向がある。」、「その人は自信過剰で批判的な層」(週刊エコノミスト2025/12/13闘論席 池谷裕二(脳科学者)から抜粋)を読んで正しくこの通りの自分であることに気が付いたものです。

30年以上もそばを打っていた自分が情けなく感じたこと、反面、この大切なそば文化を継承するためにそばネットジャパンは何ができるのかを改めて痛感したものです。

詳しくは、科目7「郷土そばの技術と魅力学」の発刊をお待ちください。

今年は、午年、特に丙午(ひのえうま)とのことで、相場市場では「午尻下がり」といってよくない年の代表とのことですが、午年の人々は、迅速で行動力があり、社交性に優れていると言われています。

したがって、今年は、そばネットジャパンが馬力を上げて、障害も乗り越え、大いに躍進することを期待したいものです。

そばネットジャパンの「人の輪」を会員の皆さんと大きく広げていきましょう。

## 令和7年トピックス



新潟県で唯一の団体正会員株式会社小嶋屋は公認そば打ち教室「十日町小嶋屋そば打ち教室」の認証を受け、昨年12月に新潟県で初めての初段検定会を実施し、15人の初段認定者が誕生しました。今後、新潟県での段位認定者の輪が広がることが期待できます。

(了)